



街かど gallery



八女市北平塚 中島美代子

墨と水と紙と筆致の出会いを生かす水墨画に魅せられ四十年、まだまだ修業中です。

平成五年より、老人大学、高齢者大学、翔年大学と水墨画の講師を十九年勤め、約二百人の方々とのお会いがありました。

八十路坂まで、教室を一日も休まず続けて来られたのは、教室の皆さんと家族のおかげと感謝しています。

これからも継続は力なりと研鑽を続けていきたいと思ひます。

このたび、水墨画人生四十年の集大成として個展を開きます。

どうぞ高覧頂き、ご指導下さいますようお願いいたします。

会場 八女市文化会館

期日 5月26日から30日正午まで(28日は休館日)

作品 額装、軸装、着物、屏風、襖等77点

電話 0943・22・5074

矢部川源流・杉の里の四季 ⑩

ツクシシャクナゲ(筑紫石楠花)

撮影場所は八女市矢部村御前岳の西側にあるツクシシャクナゲの群生地。5月初旬、新緑に囲まれて咲く自然の石楠花は格別に美しい。ルートは「源流の森」経由の登山道が開設されている。見頃は5月初旬から中旬。

ツクシシャクナゲは本州中部近畿以西、四国、九州の山地に自生し、その名前に由来するように九州では広い地域に分布する。矢部では釈迦岳、御前岳周辺に広がるブナ林の中にツクシシャクナゲの群生地が点在する。高山に咲く自然の石楠花は花の色が濃く、年数を重ねた大木に豪快に咲く花はまさにツツジ科の王様である。

(黒木町) 松尾重根



急な陽気の変化に体がついていけず、総合病院で受診することになった。友人、知人の見舞いでは時々行くことはあったが自分がお世話になるのは初体験である。受け付けのスケールと混雑に圧倒された。空港のサービスカウンターに並んだ雰囲気である。貰ったカードを手に広い院内を老妻と二人右往左往。採血、検尿にはじまり高価そうな先端医療機器による検査の連続で半日がかりである。一とおり、検査結果が出揃うと診察室に呼ばれ、医師の机に鎮座するパソコンの画面に出る画像や数値をもとに説明を受ける。ふと子どもの頃冷たい聴診器を胸に当てられたり、口を大きく開いてペロの色を見せたり、

喉の奥にヨードチンキを塗られた記憶が蘇る。「加齢によるものですよ。お大事に」と言われても何ともスッキリしない。会計もカード、デパートで買い物をする感覚である。一人で来ていたらとてもじゃないが無事診察を受けて帰れる自信はない。スマホ、二モカ、スゴカ、…デジタル難民は電車に乗って街に出ることも、病院にかかることもママにならない暮らしが世の中になった。原発事故と同列には論じられないが余りにIT化が進歩するものも考えものである。ウインドウズ窓はあけたがしめられず。(下ロポ) パソコンを叩いて直す五十代 (ツロパン人生) 「サラ川」傑作選・講談社 はお

楽しい仲間たち 八女FC

私たち八女FCは八女市及び近隣市町の小学1年生から小学6年生が鴻江知明監督、中津留寛コーチを慕って集まった少年サッカークラブです。今年創部22年目を迎えました。

全日本少年サッカー福岡県大会に出場十数回等、輝かしい入賞の実績を残しています。卒部生にはジェフ千葉の田中佑昌、ロアッソ熊本の高橋祐太郎をはじめ、次代を背負う有望な選手を輩出しています。細かく繋ぐパスとドリブルで切れ込むサッカーを身上とし基本に忠実なプレーを心がけ、また自分で考えることを意識させる練習を行っています。部員は県大会出場を目指して木・土曜は八女市総合体育館横運動場、水曜は室岡グランドで練習しています。PM5時30分～7時。入部は随時OKですが、まずは体験入部をお勧めします。運動しやすい服装と運動靴だけで結構です。一生懸命にボールを追いかける姿を見、練習後の子どもの感想を聞いて下さい。「楽しい」「面白い」。そうです！サッカーはルールが簡単で、たくさんの友だちと楽しくできる面白いスポーツです。サッカーは心と心をつなぐ懸け橋です。友だちがもっとほしい子、上手になってJリーガーになりたい子、さあ一緒に楽しくサッカーをしましょう。未来のなでしこジャパンも待ってます。

八女FC育成会 (お尋ねは090-5296-0783平島)



釣り 「海へ海へ」 (絶好の行楽シーズン到来♪)

早春の爽快な気候も薄れ、やがて初夏を迎える時節となった。この時期にはやはり、アウトドアを楽しむのが最善か。新緑の山々に囲まれ、思いきり深呼吸をする壮快さ。心に響く野鳥の声を聴きながら、地産のそばを戴き露天風呂にでも浸れば行った事などないが、「極楽」とはこういうものかと、不徳の身には思えてしまう…。

さてさて、山の楽しみはこれくらいにして(汗)、先日、四国の複数の釣り友から電話やらメールがこの時節を待っていたかのようにいっぺんに舞い込んできた。どれも大型の石鯛が好調なので、すぐにでも来いという半強制的な「お誘い」であった。

しかしながら、世間で言う「都合」がつかない…。

暇人にさえ「用事」「約束」というものは有る。守らねば命を落とす、獲られるという種でもないが、常軌を逸した行動は家族にも、隣近所でも嫌がられる。

渋々と用件を片付けていると、いつの間にか釣りシーズン真っ盛りとなっている…(汗)。高知県南西部の景勝地でもある沖の島、鶴来島、黒潮で育まれた立派な魚達が毎夜枕元で囁く。「早くおいで」と。(笑)

なので、今私の気持ちとしては「海へ山へ」ではなく「海へ海へ」なのだ…。



眩き



喉の奥にヨードチンキを塗られた記憶が蘇る。「加齢によるものですよ。お大事に」と言われても何ともスッキリしない。会計もカード、デパートで買い物をする感覚である。一人で来ていたらとてもじゃないが無事診察を受けて帰れる自信はない。スマホ、二モカ、スゴカ、…デジタル難民は電車に乗って街に出ることも、病院にかかることもママにならない暮らしが世の中になった。原発事故と同列には論じられないが余りにIT化が進歩するものも考えものである。ウインドウズ窓はあけたがしめられず。(下ロポ) パソコンを叩いて直す五十代 (ツロパン人生) 「サラ川」傑作選・講談社 はお

「磯の旅人」

